

茨城県の景気判断を据え置きました  
～茨城県経済は、緩やかに回復しつつあります～

みなさん、こんにちは。いつも、このサイトをご覧いただきありがとうございます。私どもでは、茨城県における最新の金融経済情報を提供しております。公表されている指標は実態としては数か月前までのものですが、日銀水戸事務所作成の茨城県金融経済概況公表日の前営業日までに、企業等から聴取した情報も踏まえて判断しております。この紙面では、県内景気判断の背景となった考え方などを、簡潔に、可能な限りわかりやすく解説しますので、どうぞご利用ください。

4月12日に公表しました茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢を、生産面に弱い動きがみられるものの、基調的には「緩やかに回復しつつある」として、判断を据え置きました。25か月連続です。

生産面についてみると、新興国経済の減速の影響を受けて輸出が弱含んで推移していることから、月々の動きには振れがありますが、引き続き弱い動きとなっています。

こうした動きを受けて、企業マインド（茨城県短観＜3月調査＞）をみると、製造業では、為替円高の進行もあって、業況判断 D.I.（前回11→今回5）は、2期振りに「良い」超幅が縮小しました。一方、非製造業では、業況判断 D.I.（前回2→今回4）は「良い」超幅が小幅ながら拡大するなど、やや対照的な動きを示しています。

この間、需要項目についてみると、個人消費は、自動車販売など一部に弱さがみられるものの、基調的には底堅さを維持しています。2月の百貨店・スーパー販売額は、2か月連続で前年比プラスとなりました。暖冬の影響による売り上げの下押し要因が薄れる下で、引き続き、バッグや帽子等の身の回り品が好調であるためです。株安の影響による消費者マインドの悪化が心配されますが、これまでのところ売上面には、さほど影響は現れていないようです。

住宅投資については、4か月振りに前年を上回りました。貸家系で給与住宅（社宅等）の着工件数が多かったという特殊要因によるものですので、持ち直しの動きが一服という判断を据え置きました。もっとも、持家が3か月連続前年を上回るほか、住宅展示場への来場者が増加しているとの声が聞かれています。マイナス金利付き量的・質的金融緩和により、住宅ローン金利は一段と低下しています。先行き、住宅投資が持ち直してくることを期待しています。

公共投資については、先行指標の公共工事請負金額が、県、市町村の2015年度発注工事が本格化していることもあって、前年比でみて高めの伸びとなっています。公共投資全体では、「下げ止まりつつある」とみえています。

また、茨城県短観（3月調査）でみると、県内企業の2015年度設備投資額は、前回調査から小幅ながら上方修正（+0.2%）され、全産業で前年比+9.7%と高めの伸びが見込まれています。また、2016年度設備投資計画についても、全産業で+14.0%と年度開始前の3月時点の調査としては、強めの計画が出ています。ヒアリング情報では、大企業製造業の一部では、海外景気の不透明さを眺め、設備投資を慎重化させる先がみられてはいますが、中長期的な事業強化に向けた取り組みや、人手不足を背景とした省力化・効率化投資に前向きな先も幅広くみられています。

以上のように、新興国経済の減速の影響から外需には、足もと鈍さがみられていますが、個人消費の底堅さや高めの設備投資計画にみられるとおり、内需については、所得から支出への前向きな循環メカニズムが持続しています。緩やかな景気回復という基調は維持されています。

2016年4月12日  
日本銀行水戸事務所長  
鶴屋 洋一郎